



"Limited Space", 1971 ウォーカー画廊での展示風景 (1971年) 撮影: 安斉重男 ©Norio Imai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 今井 祝雄 「SQUARE」

会期：2021年10月9日(土) - 11月13日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間:12:00-18:00 定休日:日、月、祝日

オープニングレセプションは開催致しません。

【ご来廊時のご協力につきまして】

\*発熱、頭痛、咳、呼吸困難、倦怠感、嗅覚味覚異常など体調のすぐれないお客様はご来廊をお控えいただくようお願い致します。

\*マスクのご着用をお願い致します。またご来廊時には入口にて手指のアルコール消毒と、非接触型体温計による検温にご協力いただくようお願いしております。

\*万が一関係者などから新型コロナウイルス感染症の発症があった場合、連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。

\*大人数でのご来廊はなるべくお控えください。

\*混雑が発生した場合は、入場制限をすることがございますのでご了承ください。

ギャラリーでの換気のため、常時ドアと窓を開放しております。スタッフは毎日必ず検温を含む健康チェックを行い、手洗い、消毒液による殺菌をこまめに行なっております。予防対策として、マスクを着用し、ご対応させていただく場合がございます。今後も会期等が変更になる可能性がございます。弊廊ウェブサイト、twitterを随時更新してまいりますので、ご確認の上ご来廊いただけましたら幸いです。

2021年10月9日(土)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、今井祝雄の個展「SQUARE」を開催いたします。

造形作家・今井祝雄の個展を開催いたします。1946年、大阪に生まれた今井は、19歳で具体美術協会会員となり、同グループが解散する1972年まで会員として活動しました。

本展は、1971年に今井が発表したインスタレーション《Limited Space》を半世紀の時を経て、再構築を試みるものです。ギャラリーの床面よりもひとまわり大きなカーペットを敷き詰める《Limited Space》は、鑑賞者が実際にそのなかに入り、体験することのできる作品です。

また、本展では加えて、草地に1メートル角の透明ガラスを敷き、その際に生じる現象的な変化を撮影した写真作品《SQUARE-glass/grass》(1970)も展示いたします。

ギャラリー空間にカーペットを敷き詰める《Limited Space》、そして、草地にガラス面を置きそこで生じる変化を撮影する《SQUARE-glass/grass》は、どちらも最小限の操作を行うことにより、私たちが自明とする世界のあり方や、美術作品が展示される制度そのものに批評的な介入を試みるものです。その点で、今井の活動は、1970年代初頭のグローバル・コンセプチュアリズムや制度批評的な動きとも連動していたと言えます。70年代初頭から現在に至るまで活発な活動を続ける今井の個展をぜひご高覧ください。



## ■アーティストステートメント

ギャラリーの床に、実際よりひとまわり大きいサイズのカーペットを敷き詰め、床からはみ出し壁ぎわにまくれ上がったままの端々を栈木で打ち止める。観客はその中に入り込む。1971年にインスタレーションした《リミテッド・スペース》を、ちょうど半世紀を経た2021年、再制作？いや追制作する。

その方形のギャラリー空間の壁には、写真作品《SQUARE-glass/grass》シリーズが展示される。1970年の夏のある日、草地の上に1メートル角の透明ガラスを置いた。ガラスは重みでやや沈んで、へしゃげた方形の草面の様相を見せ、そこに青空が映りこむ。ガラス面は間もなく草いぎれで白く曇り、水蒸気の水滴の中で透過と反映が交りあう。そのわずか数分の間、私は何度もカメラのシャッターを切り続けた。

キャンパスの突起や穴を穿った制作を始めて以来「内と外、裏と表」の関係は、写真・映像作品においても踏襲されている私の関心ごとであるが、異なる時間と場所で行った以上の2つの作品が同じ空間で出会う。

---

## ■トークイベント：〈「再制作と追制作」今井祝雄の1970年前後〉

展覧会の開催に伴い、三輪健仁氏を迎えトークイベントを開催いたします。

**今井祝雄×三輪健仁（東京国立近代美術館主任研究員）**

日時：2021年11月12日（金）18:00-19:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：今井祝雄（アーティスト）× 三輪健仁（東京国立近代美術館主任研究員）

参加費：無料（事前申込制）

### 【お申し込み方法】

件名「トークイベント参加」、本文にお名前・参加人数・電話番号をご明記のうえ [event@ycassociates.co.jp](mailto:event@ycassociates.co.jp) までメールでお申し込みください。

\*定員（12名）になり次第、受付を終了いたします。

\*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

\*当日は記録動画撮影のためカメラが入ります。

## 登壇者プロフィール

### 三輪 健仁 Kenjin Miwa

東京国立近代美術館主任研究員。主な企画（共同キュレーション含む）に「ゴードン・マッタ＝クラーク展」（2018年）、「Re: play 1972/2015—『映像表現 '72』展、再演」（2015年）、「14の夕べ」（2012年）、「パウル・クレー展—おわらないアトリエ」（2011年）、「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」（2009年）など（いずれも東京国立近代美術館）。最近の執筆に「無名の顔—辰野登恵子の抽象について」「辰野登恵子 ON PAPERS A Retrospective 1969-2012」（青幻舎、2018年）、「ノンサイト—デス・ヴァレー」「ロバート・スミッソンの作品一覧 | 『プラスチック展』（1965年）から『ノンサイト展』（1969年）まで」（東京国立近代美術館、2017年）、「David Shrigley: Really Good」（ユミコチバアソシエイツ、2017年）など。



## ■アーティストプロフィール

### 今井 祝雄 (Norio Imai)

1946 大阪市生まれ  
1965 具体美術協会会員  
1966 第10回シェル美術賞展1等賞受賞

### <主な個展>

2019 Expo Chicago (Navy Pier Festival Hall/シカゴ、アメリカ)  
今井祝雄 - 行為する映像 (アートコートギャラリー/大阪)  
日本美術サウンドアーカイブ - 今井祝雄《Two Heartbeats of Mine》1976年(+1 art/大阪)

2018-19 今井祝雄 - 物質的恍惚 (アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー/ワインエーゲム、ベルギー)

2016 今井祝雄 Retrospective - 方形の時間(アートコートギャラリー/大阪)  
今井祝雄「白のイベント x 映像・1966-2016」(Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京)

2015 今井祝雄 Shadow of Memory (1期) / White Event (2期)(ギャラリー・リチャード/パリ、フランス)  
Norio Imai, Gutai Works (アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー/香港)  
Time Collection (Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京)

2014 今井祝雄 -Retrospective- 映像と映像 (アートコートギャラリー/大阪)  
白からはじまる (Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku/東京)  
白の遠近 (ギャラリー・リチャード/ニューヨーク、アメリカ)

2013 白のイベント (アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー/アントワープ、ベルギー)

2012 今井祝雄 -Retrospective-17才から22才 (アートコートギャラリー/大阪)

2005 デイリーポートレイトの四半世紀 (夢創館/神戸)

1996 BACK & FORTH 今井祝雄・白の空間1964-1966 (ギャラリー16/京都)

1981 ビデオによる (ザ・バンク/アムステルダム、オランダ)  
Videotape Performance (Video Gallery SCAN/東京)

1980 矩形の時間 (ギャラリーキタノサーカス/神戸)

1976 6/8拍子part2 (アート・コア・ギャラリー/京都)

1971 ウォーカー画廊/東京

1969 布の造形シリーズ (画廊みやざき/大阪)

1966 グタイピナコテカ/大阪

1964 17歳の証言 (ヌーヌ画廊/大阪)

### <主なグループ展>

2021 今井祝雄・中川裕貴 踊る心、考える耳 (+1 art/大阪)  
文字模似言葉 (もじもじことのは) (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA/滋賀)  
映像は発言する! 2021 配信時代の思考と試行 (ギャラリー16/京都)

2020-21 開館50周年 今こそGUTAI 具美の具体コレクション(兵庫県立美術館/兵庫)

2020 チャリティー・オークション「見えない世界」(+1 art/大阪)  
京都の美術 250年の夢 第1部-第3部 総集編 -江戸から現代へ-(京都市京セラ美術館/京都)  
Small Works 1950s-2020 (アートコートギャラリー/大阪)  
timelake - シングルスクリーン/とりまく息を吐く瞬間 - (Kanzan Gallery/東京)

2019-20 art trip vol. 03 in number, new world/四海の数 (芦屋市立美術博物館/兵庫)

2019 WAVES - FREQUENCES (波 - 周波数)ハンブルク・大阪友好都市提携30周年記念大阪展 (CAS/大阪)

2018-19 Fluorescent Chrysanthemum Remembered (Laznia Centre for Contemporary Art/グダニスク、ポーランド)

2018 具体 - 絵画の空間と時間 (スラージュ美術館/ロデス、フランス)

2017 Japanese conceptual photography from the 70's (GALERIE CHRISTOPHE GAILLARD/GALERIE 1900-2000/パリ、フランス)  
Becoming & Dissolving: 'The Art of Appreciating Simple Beauty in a Naturally Imperfect World' (Alice Black/ロンドン、イギリス)



- Intuition (パラッツォ・フォルトゥニー/ヴェネツィア、イタリア)  
第31回イメージフォーラム・フェスティバル2017 (イメージフォーラム東京/東京、京都芸術センター/京都、福岡市総合図書館/福岡、愛知芸術文化センター/愛知)  
第46回ロッテルダム国際映画祭 (ギャラリー・ジョーイ・ラモーン/ロッテルダム、オランダ)  
Film and Video Works—Time Severed, Jointed and Stretched (BOZAR Centre for Fine Arts/ブリュッセル、ベルギー)
- 2016 蛍光菊—Contemporary Japanese Art (ICA/ロンドン、イギリス)  
Performing for the Camera (Tate Modern/ロンドン、イギリス)
- 2015 Re: play 1972/2015—『映像表現 '72』展、再演 (東京国立近代美術館/東京)
- 2014 Proportio(パラッツォ・フォルトゥニー/ヴェネツィア、イタリア)  
Image and Matter in Japanese Photography from the 1970s(Marianne Boesky Gallery/ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 具体:素晴らしい遊び場所 (グッゲンハイム美術館/ニューヨーク、アメリカ)
- 2012 A Visual Essay on Gutai at 32 East 69 Street (Hauser & Wirth/ニューヨーク、アメリカ)  
「具体」ニッポンの前衛18年の軌跡 (国立新美術館/東京)
- 2011 Masked Portrait II -When Vibrations Become Forms (Marianne Boesky Gallery/ニューヨーク、アメリカ)  
Nul=0: The Dutch Nul Group in an International Context (スヒーダム市立美術館/オランダ)
- 2009-10 ヴァイタル・シグナル—日米初期ビデオアート (ジャパソサエティ/ニューヨーク、ボストン美術館/ボストン、ロサンジェルス・カウンティ美術館/ロサンジェルス、横浜市美術館/神奈川、国立国際美術館/大阪他)
- 2007 ラディカル・コミュニケーション:日本のビデオアート1968-1988 (ゲティセンター/ロサンジェルス、アメリカ)
- 2004 結成 50周年記念「具体」回顧展 (兵庫県立美術館/兵庫)
- 1994 戦後日本の前衛美術 (横浜美術館、グッゲンハイム美術館/ニューヨーク、サンフランシスコ近代美術館/サンフランシスコ、アメリカ)
- 1993 ビデオ・新たな世界—そのメディアの可能性 (O美術館/東京)
- 1992 日本のビデオ・アート特集—80年代編 (世田谷美術館/東京)  
フレームの美学—アニメーションの理論と実践 (埼玉県立近代美術館)  
現代日本の写真美術 (ウォーカー・ヒルアートセンター/ソウル、韓国)
- 1990 ヨーロッパ・メディアアート・フェスティバル (オスナブリュック/ドイツ)  
日本のビデオアート 80年代 (ローマ日本文化会館ほか欧米を巡回)
- 1989 河原温と同時代の美術1966-1989 (ICA名古屋/愛知)
- 1985 現代のセルフポートレート (埼玉県立近代美術館/埼玉)
- 1983 現代美術における写真 — 1970年代の美術を中心として (東京国立近代美術館/東京、京都国立近代美術館/京都)  
第12回モントリオール国際ニューシネマ・フェスティバル (モントリオール 他2都市に巡回)
- 1982 第4回シドニービエンナーレ
- 1974 第11回日本国際美術展—複製、映像時代のリアリズム (東京都美術館/東京)
- 1973 第8回ジャパン・アート・フェスティバル (リュブリャナ近代美術館/リュブリャナ、スロベニア、マンハイム市立美術館/マンハイム、ドイツ)  
京都ビエンナーレ—集団による美術 (京都市美術館/京都)
- 1972 映像表現'72—もの・場・時間・空間—Equivalent Cinema (京都市美術館/京都)
- 1971 第10回現代日本美術展—人間と自然 (東京都美術館/東京、京都市美術館/京都)
- 1970 第16回 オーバーハウゼン国際短編映画祭 (オーバーハウゼン、ドイツ)  
万国博美術展 (万国博美術館/大阪)
- 1968-69 現代日本美術展—蛍光菊 (現代美術研究所=I.C.A./ロンドン、イギリス)
- 1967 第5回パリ青年ビエンナーレ (パリ市美術館)
- 1966 空間から環境へ (松屋/東京)  
現代美術の動向 (国立近代美術館京都分館)
- 1964 第14回具体美術展 (高島屋/大阪)

### <主なパブリックアート>

- 2001 《ここから、ここへ》 (京阪電鉄天満橋駅、大阪)
- 2000 《永田耕衣文学碑》 (泉福寺、加古川市、兵庫)
- 1996 《ココロの球》 (鬼岳園地、五島市、長崎)  
《連鎖球体》 (大津市役所沿道、滋賀)
- 1992 《原田の音石》 (豊中市立老人福祉センター、大阪 / 藤本由紀夫との共同制作)
- 1982 《タイムストーンズ 400》 (新大阪駅前、大阪)



<主なパブリック・コレクション>

大阪府  
京都国立近代美術館  
滋賀県立美術館  
兵庫県立美術館  
宮城県美術館  
芦屋市立美術博物館  
大阪中之島美術館  
福岡市総合図書館  
成安造形大学  
ゲティセンター (ロサンゼルス、アメリカ)  
アクセル・アンド・メイ・ヴェルヴォールト財団 (ベルギー)  
ラチョフスキーコレクション (ダラス、アメリカ)  
ファーマサイエンス・コレクション

---

**【本展に関するお問合せ】** ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ オフィス

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] [info@ycassociates.co.jp](mailto:info@ycassociates.co.jp)

[website] [www.ycassociates.co.jp](http://www.ycassociates.co.jp) [営業時間] 12:00-18:00 [定休日] 日・月・祝日